



## 知的障害のある児童生徒の学びについて

### 児童生徒の学びを支える各教科

**知的障害特別支援学級**では、小学校や中学校の各教科を、知的障害のある特別支援学校の各教科（以下、「知的障害のある児童生徒のための各教科」と表す）に替えて実態に応じた教育課程を編成することができます。このことを「**特別の教育課程**」といいます。

- 知的障害のある児童生徒のための各教科は、小学校や中学校と異なる教科で構成されていますが、目標や内容等の示し方の構造や教科に係る見方・考え方は、小学校・中学校の教科と同じです。
- 知的障害のある児童生徒のための各教科は、小学校・中学校の各教科のように「学年」ではなく、「段階」で目標と内容が示されています。小学部では3つの段階、中学部では2つの段階で示されています。
- 知的障害のある児童生徒のための各教科には、文部科学省作教科書が用意されています。

知的障害のある児童生徒の知的機能の状態は、同一学年であっても、個人差が大きく、学習状況等も異なります。特別支援学校学習指導要領に目標・内容を段階によって示すことで、個々の児童生徒の実態等に即して、各教科の内容を選択して、個別の指導計画に基づく効果的な指導ができるように考えられています。

### 文部科学省著作教科書 知的障害者用 ☆(ほし)本

知的障害のある児童生徒のための各教科のうち、小学部の生活科、国語、算数、音楽と、中学部の国語、数学、音楽、社会、理科、職業・家庭には文部科学省著作教科書があります。各教科書は学習指導要領の段階を「☆」の数で示していることから、「☆(ほし)本」と言われます。

- ☆ (小学部1段階)
- ☆☆ (小学部2段階)
- ☆☆☆ (小学部3段階)
- ☆☆☆☆ (中学部1段階)
- ☆☆☆☆☆ (中学部2段階) となります。



「せいかつ☆」「こくご☆」「さんすう☆」「おんがく☆」はそれぞれ小学部1段階の教科書です。☆本は、絵や写真が中心で、文字が少なかったり、漢字にルビがふってあったりと知的障害のある児童生徒が理解しやすいように工夫されています。

<例>

「さんすう☆」では数字を使わずに「いち、に、さん、たくさん」と表現されたり、透明シートで絵が変わったりするなど面白い工夫がされています。



# 個別の指導計画の作成と活用について

個別の指導計画は、特別な支援を必要とする子供の実態に応じて一人一人の指導目標、指導内容及び指導方法を明確にし、きめ細やかで適切な指導を行うために作成されます。特別支援学校及び特別支援学級の在籍児と通級による指導を受けている子供については、作成と活用が義務付けられ、通常学級に在籍している特別な支援を必要とする子供についても、作成と活用に努めるものとされています。

今回は、気づきから個別の指導計画の作成までの流れについて紹介します。

## ○作成手順

### 気づき

- ・保護者からの相談、合理的配慮の申し出
- ・特別支援教育コーディネーターを中心に記録等をもとに情報交換し、学習や行動の特徴をつかむ

個別の教育支援計画と関連付けながら作成していくよ。



### 全体像の把握

- ・校内委員会での検討
- ・本人、保護者のニーズの把握
- ・専門的な立場からの助言や諸検査の必要性の検討・実施

### 必要な支援と手立ての検討

- ・学習や行動等の背景を探る
- ・必要な支援と手立ての検討
- ・本人、保護者との共通理解、合理的配慮の合意形成

### 個別の指導計画の作成

- ・重点課題、優先内容の選定
- ・長期、短期目標の設定と指導の手立ての決定
- ・通級による指導と通常の学級との指導の一体化

Plan

作りっぱなしにならないように気をつけなきゃ。

### 指導の実施

- ・通級による指導と通常学級での個別的な配慮・支援
- ・積極的な情報の交換・指導方法の工夫

Do



### 指導の評価

- ・保護者、担任とともに指導の評価
- ・校内委員会での評価

Check

### 個別の指導計画の見直し

- ・長期、短期目標と指導の手立ての改善
- ・保護者、担任との共通理解